

ワークショップ 11

「消化管悪性腫瘍の薬物療法の最前線：現在の標準治療と今後の展望」

司会 佐藤 太郎（大阪大学医学部附属病院）

五井 孝憲（福井大学第一外科）

消化管悪性腫瘍の薬物療法は、遺伝子パネル検査をはじめとするバイオマーカー検索の普及、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬、抗体薬物複合体が登場し劇的な進化を遂げている。本セッションでは、現在の標準治療を整理するとともに、次世代の治療戦略や個別化医療といった今後の展望について深く議論したいと考えています。日々の臨床経験や最新の研究成果など、皆様からの意欲的な演題応募を心よりお待ちしております。